

企画展「音ってなあに？」 パート2

「ほっとやまはく」
タイム³⁹



てきた役割を考える展示
としていきます。それでは、
主な展示資料を見ていき
ましょう。

オルゴールは、約30
0年前に誕生した、音楽
を蓄え、再生することが
できる機器です。このオ
ルゴールは1800年代
に製作されたもので、簡
単に持ち運びできます。
シンダーをずらすこと
で、複数の音楽を奏でる
ことができるようになっ
ており、写真のオルゴー
ルには8曲もの音楽が収
録されています。オルゴ
ールの誕生で、私たちは
お気に入りの音楽を持ち
運ぶことができるようにな
りました。

県立山口博物館では、
6月11日まで企画展「音
ってなあに？」を開催し
ています。体験を通して、
楽しく音の性質を学ぶと
ともに、音が果たしてき
た役割を考える展示とな
っています。今回は、第
1章「音の性質にせまろ
う」の見どころについて
紹介しましたが、今回は
第2章「音を伝えるもの、
音が伝えるもの」につい
て紹介します。

音を伝えるもの

録音と再生の機器

第2章「音を伝えるもの、
音が伝えるもの」では、
蓄音機やラジオ、SPレ
コードなどの収蔵資料を
通して、音が果たし



オルゴール

しかし、オルゴールは
音楽を奏でることはでき
ても、人の声などを再生
することはできません。
音を記録、再生する機
器で、今ではなかなかお
目にかかれないのが、ワ
イヤレコーダーです。ワ
イヤレコーダーは、エジ
ソンが蝋管型の蓄音機を
発明した約10年後の18
98年に、ポールセンに
よって発明されました。



ワイヤレコーダー

音が伝えるもの

関東大震災の状況も

今度は音が伝えるもの
の展示を紹介します。博
物館で所蔵されている約
600枚のSPレコード
の中から、レコードが持
つ情報の多様性が分かる
約20点の資料を展示し
ています。その中の一つに
「大正震災記」というレ
コードがあります。それ
は、三代目神田伯山とい
う、当時大人気の講談師
が、ちょうど100年前
の1923年に発生した
関東大震災の被災状況に
ついて語っている2枚組
みのレコードです。伯山
は、東京の自宅で関東大
震災に被災し、その後、
大阪へ避難します。レコ



貴重な情報媒体だったレコード

ードを聴くと、伯山の被災
した状況がリアルに伝
わってきます。この当時
は、まだラジオの放送は
始まっていませんでした。
そのため、被災の状況
を知るには、新聞や口
コミ、レコードに頼るし
かなか、レコードは、東
京から遠く離れた場所に
被災状況をリアルに伝え
るとともに、後世に残す
という大切な役割を果た
す。

手回し蓄音機



ワイヤレコーダーは、磁
気を使って録音・再生す
る機器です。直径0・1
ミ程度の極細のスチール
ワイヤを磁化すること
で、録音・再生していま
した。最初は、あまり音
質が良くなく、改良を加
えながら、50年ほど使わ
れましたが、テープレコ
ーダーの原型となった磁
気酸化鉄をコーティング
した磁気テープが開発さ
れて、ワイヤレコーダー
は姿を消していきまし
た。しかし、ワイヤレコ
ーダーはその後誕生す
る光磁気ディスク(MO)
やハードディスクなどに
つながっていく磁気記録
方式の嚆矢(こうし)と
して、技術史において、
揺るぎない地位を築いて
います。

その他にも、昔のラジ
オや電話など、音をリア
ルタイムに遠方まで伝え
る機器を展示していま
す。

音であそぼう

音叉や伝声管も紹介

企画展「音ってなあに
？」では、これまで紹介
した第1章、第2章に続
いて、音の振動を体感す
る音叉(おんさ)や、小
さな声で話しても、離れ
た場所でもはつきりと話

し声が聞こえる伝声管な
どで音の性質を体感する
第3章「音であそぼう」
を用意しています。ぜひ、
博物館に来ていただき、
今回紹介した収蔵資料と
合わせて「音」を楽しん
でください。

漁剛志(学芸課長・理
工部門担当)

▽次回は6月7日で

山口県立山口博物館
TEL083-922-0294
月曜休館(祝日
の場合は翌日)。
最新情報はホーム
ページで

